

あ

さ

が

お

通

信

第22号

特定非営利活動法人 あさがお

大津市浜大津3-2-4

発行日：2010年11月8日

# 成年後見法世界会議in横浜



成年後見制度について、法曹関係者等が話し合う世界初の「2010年成年後見法世界会議」が、10月2日に横浜市西区にある日本最大のコンベンションセンターパシフィコ横浜で開幕しました。参加者は、世界16カ国から約500人、「超高齢社会を支える成年後見制度—誰でも利用できる制度とするために」をテーマに各国の現状や課題について報告がありました。最終日の4日には、8つの分科会から医療同意や高齢者虐待の防止策、市民後見人のあり方、後見人への公的支援組織の必要性など、様々な課題が出され、最後に、成年後見制度の適切な利用を訴える横浜宣言を発表し、閉幕しました。

フィナーレ時は、ヴァイオリニストの演奏と共に、カーテンが開き、綺麗な横浜の景色が一望。その瞬間、ホール中がヴァイオリンの音色と歓声、そして感動で包み込まれました。

日本に関しては、成年後見に関する市区町村長申立ての積極的な実施や、後見人が本人の代わりに医療行為に同意できる権利を求めるとともに、後見開始決定に伴う選挙権の剥奪など権利制限が多すぎるとして、現行成年後見法の改正などを求めました。また、国連の「障害者権利条約」とハーグ国際私法会議の「成年者の国際的保護に関する条約」の早期批准も日本政府に要望しました。

## 横浜市役所視察

10月5日、先駆的な活動をしている横浜市役所へ視察に伺いました。横浜市は、弁護士会・司法書士会・社会福祉士会・行政書士会・介護保険事業所などの専門職団体が参加をし、今後どのようにケースを支援していくかの事例検討の場として、“成年後見サポートネット”を各区で開催しており、権利擁護団体との連携を図っています。

また、住み慣れた地域で、安心して暮らすことを願う障害者やその家族の思いを支援するため、市独自で“後見的支援制度”をスタートしています。この制度によって、①あんしんキーパー②あんしんサポーターといった地域のつながりや③あんしんマネジャーである福祉専門職の力を活用し、障害者が適切な時期に適切な支援が受けられるような地域での仕組みを作っています。

このあんしんサポーターは、あさがおの地域支援員の役割と共通するところがあります。今後の後見的支援制度、特にあんしんサポーターの活躍を拝見させてもらい、あさがおにおける地域支援員の役割のあり方についても考えていきたいと思ひます。



# 地域支援員養成専門講座2010開講！！



第1回 あさがお所長 尾崎史



第2回 龍谷大学教授 筒井乃り子氏



第3回 坂本デイケアセンターすみれ  
齋村妙子氏



第4回 生活訓練施設 樹  
藤井史子氏



第5回 認知症グループホームみちくさ  
中原一隆氏



第6回 龍谷大学准教授  
山田容氏



第7回 メインストリーム協会副代表  
玉木幸則氏



第8回 PAS ネット理事長  
上田晴男氏



第9回 せせらぎ法律事務所  
竹下育男氏

特定非営利活動法人あさがおが行う成年後見活動の補助的役割を担う「地域支援員」の養成専門講座が開講し、現在までに9回の講座が終了しています。

第1回は、あさがお所長の尾崎史氏による「成年後見活動の実際」、第2回は、龍谷大学教授の筒井乃り子氏による「権利擁護支援の基本」、第3回は、坂本デイケアセンターすみれの齋村妙子氏による「重度心身障がい者の生活を考える」、第4回は、生活訓練施設樹の藤井史子氏による「精神障がいを持つ方の生活を考える」、第5回は、認知症グループホームみちくさの中原一隆氏による「認知症高齢者の生活を考える」、第6回は、龍谷大学准教授の山田容氏による「ソーシャルワーク」、第7回は、メインストリーム協会副代表の玉木幸則氏による「身上監護の具体的な支援について」、第8回は、PAS ネット理事長の上田晴男氏による「虐待対応の基本」、第9回は、せせらぎ法律事務所の竹下育男氏による「権利擁護と法的支援」でした。

毎回、多彩な講師陣と豊富な情報量に彩られた講義を受ける事は、受講生にとって、対人援助技術を獲得する為の良きヒントになっています。講義中は、全員がメモを取ったり、質問をしたりするなど、受講生の講義に対する熱心さが回を追うごとに増している気がします。

## 知多視察



8月18日、5市5町から成年後見利用促進事業を委託されている愛知県のNPO法人知多地域成年後見センターへ視察に伺いました。

まず、神野次長兼社会福祉課長（東海市市民福祉部）より成年後見センターが設立された背景の説明を受けました。その中で『税金を効果的に活用していくのが行政マンの使命である』と話されたことが印象的でした。また、その市職員の思いのもと、事業を継続させるための経済的基盤の安定を行政が担っているとのお話

があり、行政からの多大なる期待と信頼感を成年後見センターが受けていることを実感しました。

また、NPO法人知多地域成年後見センター今井事務局長と日本福祉大学の柿本教授からは大学生の身近にある学ぶ場として成年後見センターと大学が連携を図り、産官学の協働を図っているとの話を伺いました。

各機関がネットワークを構築することで、各機関のもっている強みがさらに強化されていることが分かりました。

今後、あさがおが地域の社会資源として、どの機関と連携を図り、どのような役割を担っていけるのかを検討していくためのよい機会となりました。

## 認知症ケア向上研修

第2回目は、「施設虐待の予防について」というテーマで『拘束廃止研究所』所長の田中とも江氏をお招きし、ご講演を頂きました。

参加者の方からは「誇れる支援ができるように自分の支援内容について確認をしたい」「流されてしまうことの多い毎日だが、声を大にして変えていきたい」といった声が聞かれ、施設虐待の予防について知ってもらおうとともに一人ひとりの方と向き合っていく個別ケアについても考えてもらうよい機会となりました。



第3回目は、「地域密着型サービスの実践」というテーマで『NPO法人木もれび』理事長の森村敬子氏をお招きし、ご講演をいただきました。参加者の方からは「心からの笑顔が引き出せるような関わりをチームで取り組んでいきたい」「今の仕事に対して改めて働く意義、何をしていけばよいのかを認識することができた」などの声が聞かれ、研修を通じて地域における自分たちの支援のあり方について考えてもらうきっかけとなりました。

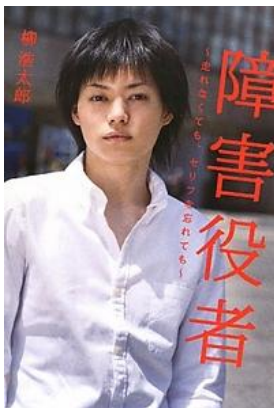


第4回目は、大阪市情報・研修センター・スーパーバイザーの沖田裕子氏より『若年性認知症の方のケアと課題』についてご講演いただきました。

参加者の方からは、「情報をたくさん収集し、本人の何がしたいのかを支援していきたい」「若年性の方とまだ接したことがないが、機会があれば逃げないで向き合っていきたい」「年齢も病気も関係なく、一人ひとりを大切にしていきたい」などの声が聞かれました。認知症ケアに従事している専門職の方々の力の源になれるような研修に今後も取り組んでいきたいと思えます。



# 書籍紹介



人気ミュージカル『テニスの王子様』の初代主人公に抜擢され、役者として将来の飛躍を期待される中、交通事故に遭遇し「高次脳機能障害」というハンディキャップを背負った、柳浩太郎（D-BOYS）の葛藤を全告白。右半身麻痺、記憶障害、声帯損傷などの後遺症が残る中、常に前を向いて役者として生きる不屈の自伝エッセイ。

柳浩太郎 著 『 障害役者 ～ 走れなくても セリフを忘れても ～ 』 ワニブックス



「幻覚&妄想大会」をはじめとする捷破りのイベントはどんな思考回路から生まれたのか？  
べてるの家のような場をつくるには、専門家は どう振る舞えば良いのか？ 「当事者の時代」  
に専門家が（できること）と（してはいけないこと）を明らかにした、かつてない実践的「非」  
援助論。

向谷地 生良 著 『 技法以前：べてるの家のつくり方 』 医学書院

## 新職員紹介



事務員 廣瀬 雪絵

9月からご縁があり事務員としてお世話になっていきます。息子が小学校1年生になり、久しぶりの社会復帰です。緊張の毎日ですが、みなさんにご迷惑をかけながらも、楽しくお仕事させて頂いています。少しでもお役に立てるよう頑張りたいと思っておりますので、どうぞ宜しくお願い致します。

## 今月の一句

律儀にも

土手に色なす

彼岸花

純坊

\*\*\*\*あさがおの会員を募集しています\*\*\*\*  
私達の活動に賛同・支援していただける個人・法人の会員を募集しています。

個人 入会金 1,000円 年会費 5,000円

法人 入会金 10,000円 年会費 50,000円

お問い合わせは 077-522-0799 まで